

皆様こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。

今日は私の家にいる二匹の犬の話を書かせていただきます。一匹はポメラニアンの雄でピンク、もう一匹は雌のマルチーズでミミといいます。先日「もう夏だからマルガリータにしよう」ということで散髪に行かせたところピンクはデブ犬で秋田小犬のようになり、ミミはトリガラのやせ犬だということが判明しました。二匹とも毛が長く全く予想外の結果でした。私も医師の診察は患者さんが診察室に入って来られる姿を見ることがからすでに始まっています。不安でいっぱい顔、見るからに赤ら顔でたくさん飲んでるなという顔（人のこと言えないか？）私の診察日ということでもめかし込んでくる人（私もかつてはジャーニーズ系と呼ばれたことがある??本当です!）、手足の不自由になった方、等々。

前置きが長くなりましたが何を言いたいかというと人は見かけと違い、話をよく聞くと主訴と全然違う訴えが出てきたり、また太ってると思った患者さんが洋服を取ってもらおうと実はやせ細っていたりするという事です。きちんとした診療は患者さんの訴えをきちんと聞くだけでなく、医師は五感を働かせてきちんと診察することが必要です。

先日内科回診の途中、車先生が突然「あっ！」と声を出して何かと見てみると、患者さんのタオルに「務所」と書いてあり皆でびっくりしてしまいました。裏を見ると「〇〇法律事」とあり一同眼を合わせてほっとするやら、苦笑いをするやらでした。物事の両面性を表す良い例えと思いました。職員がけんかをした時も必ず双方の言い分を聞かなければ真実は出てきません。患者さんからのクレームに対してもいろんな人の意見を聞かないと事実とは違った判断や結果となってしまう。早とちりをせずきちんと見極める癖を付けなければいけないと思います。

私が院長になり早三カ月ですが、嬉しいことをあげてみます。まず医局の先生が全員仲がいいこと（これは中々難しいことなのです）、医療技術部が大変前向きなこと、事務部がまじめなこと、看護部が一生懸命なこと（特に看護助手さん達が皆、病院の近隣に長く住んでいる常識的主婦であること）です。病院の評価とは何か??外来・入院患者さんはもとより、そこで働く職員が納得し安心して自分の家族を任せられる病院だと思います。そして私は職員に言います。「自分の家族を看るように患者さんを見ましょう」と。 第5章。

